

岩屋山

観音たより

仏教的思考

今日、科学文明の発達により良きにつ  
け悪しきにつけグローバル化即ち地球的  
に考えなくてはならない時代に突入した  
今や、ある国の小さな病院で非常に難  
しい手術が行なわれようとする。そこ  
には全世界の著名な医師団が付き添って手  
術が行なわれる。

といった現実にも生身の医師団が集ま  
るのでない。即ちカメラを通して各国の  
著名な医師達が自分の部署に居ながらに  
コンピュータ画面を通して観察し、見な  
がら執刀する医師にコンピュータを通  
してアドバイスをする。この様な現実は  
弘法大師の時代に想像出来なかつたこと  
であります。誠に人間の創造力に改めて  
感服するのであります。

私は創造的宗教（一切のものが神に  
よって創造されたとする宗教）が神と人  
間との最重要な哲学が秘められるに対し  
本来の日本人は天地を創造と観、した  
がって天地の摂理を観、信仰に従って審  
判を下す、創造神の考え方ではありません  
ん。

野に咲く一輪の菊によって、或いはア  
スキの穂によって秋を観じ、それを持ち  
かえって床の間にさし、「諸行無常」を感  
ずるのは、仏教的諦念の顕れであります。  
この様な形の宗教のある事を再認識し、  
日本人の宗教心は決して低いものであり  
ません。

人間の潜在能力は一輪の菊を見て科学  
的に色・香り等を分析した結果秋の季節

発行所：和歌山県  
海草郡下津町橋本一〇六五  
福勝寺内  
電話 (073) 494-0311  
編集人：本多碩峯

修行僧・同行二人 本多碩峯

を感じるものでありません。

プロの棋士が戦いが終わり、最初から戦  
いを再現する光景をテレビで見ますが、途  
中の手から再現する事は至難の技だそうで  
すが、最初から一駒一駒再現する事は容易  
な事。僧の小生が毎日読経するお経も同じ  
ことが言えます。仮に何行目から読み上げ  
る事など至難の技ですね。

私達はアナログ的に繰り返し繰り返し  
やって来るものの次なる判断が智慧として  
湧き出るのであります。

自然現象の四季の移り変わりは年令に  
応じ幾度となく体験し、私達の潜在意識の中  
に養われ、一輪を見るだけで秋を感じる情  
緒が日本人の宗教心（仏教的思考）ではない  
でしょうか。

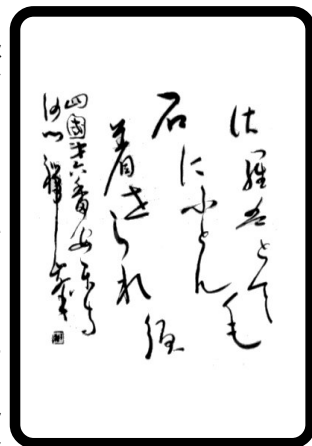
私達の真言密教は宇宙そのまま大日如来  
の仏として敬い、この大自然からふとした  
縁で父母が結婚し生活の中で私達の新しい  
生命が子として生まれたのであります。

決して巧妙な肉体を持ち、いのちをもつ  
た人間一人を、父母の思わくや計らいた  
で造れるものでありません。

凡そいのちをもつたものは、人間には創  
りません。いのちある一輪の菊も花さえ人  
間の手で創りません。人間の造れる造花な  
ら造れますが、それはいくら綺麗でもいの  
ちを持っていません。

人間が創造するコンピュータや、口  
ボット、原子発電所等などすべていのちを  
持つておりません。

真理の花たば



四国六番安楽寺長老 大僧正 畠田禅峰

畠田禅峰

昨今の創造神話に仏教は警笛を鳴らして  
います。

昨年、遺伝子の組換えによる農作物に  
国際的な問題となつていますが、南米ボ  
リビアの日系人が戦後大変な苦勞の未  
大豆栽培が最も適したことで、やっと幸  
せを掴んだと思つて居ましたら、ここに  
強力な除草剤にも強い大豆の種子が遺伝  
子組替えで開発され、大量生産によつて  
脅かされている現状、又その大豆を食べ  
る人への影響を考えると誠に困つた問題  
です。

仏は自然の中に生き、山の彼方から、そ  
の姿をあらわす。仏教特に、日本の仏教  
の中には、疑いもなく、このよな自然との  
一体感が働いていることを再認識しなけ  
ればなりません。

自然の中に仏を観、仏は自然の中に宿  
り、一体であるという考え方は、仏教以前  
から日本人の自然観・神観の基調をな  
していたのです。

次号へ

明日への装いを提案します!

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 マスメン

代表取締役 増田都司夫



本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (073) 424-4466 (代表) FAX (073) 436-6508

豊かなまちづくりに参加します!

株式会社 田淵建築設計事務所

無限供給の原理に基づく創造!!

代表取締役 木田耕藏

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL (073) 431-0261 FAX (073) 431-3898

# 弘法大師の言葉

## あざける

痛狂は酔わざるを笑い、  
酔睡は覚者を嘲る

## 酔っぱらいは

酒に酔わない人を

## 嘲笑する

## ねばり者は

目覚めている人を

## 嘲笑する

弘法大師海集 第巻

般若心経秘鑑 二五〇頁

この言葉の前に「ああ、哀れなことよ。哀れなことよ。真実な世界を知らずに眠りかけているものよ。ああ、苦しいことよ。痛ましいことよ。迷いの世界に酔いしている者よ。」がある。

本音とたまえを上手に使いこなしていることが世渡りの秘訣であり出世のカギにぎつていると言われている。

本音を言えずうまく話を合わせておくということは、私達の日常生活の中に少なくありません。その一番見事な例は、選挙、特に地方選挙によくみられる。どちらの顔にも縦ねばならず「よろしく」と言われると「解りました」と答える。そこで、A の候補にも B の候補にも一票いれず、支持しますという名簿ができてしまう。「票読みは倍以上でなければ」安心できないということが常識になっていく。

子供の立場からみると、誠に不思議なことというほかないであろう。それに、もっと恐ろしいことは、そのことへの反省も後悔も忘れてしまい慣れこ

まってきたることである。本音が言えない社会であることは現実であるが、だからと言ってそのことへの反省すら失ってしまうことになったら、もつこの世に未来がなくなってしまう。

それとともに真実に生き、正しさを実現しようとする人達が理屈屋とか変人とか言われてさげすまれ、仲間はずれにされる場合が少なくないことである。

いらずに権利ばかりを主張し、義務を果たさずわがまま放題の人が多くなってきたこと、そのようなことは全く許せません。そのような人は正統に批判されていくべきでしょう。

しかし真に人間が人間らしく生きることができるよう、何が真であり善であり正義であるかを問いかけている人間までも個人主義者、利己主義者ときめつけとしまつてはならないでしょう。

人間というものは言い出してしまつた、どうしても自分の意見を正しいものとしてあくまでも通してしまわねばならない感情にとらわれてしまつたものである。

また、自分の地位や立場を利用して、あいてを押しさえつけ、強制しがちになる。親が子に対し、夫が妻に対し、上役が下役に、会長が会員に、先生が生徒になどあげていくと数限りなしである。

弘法大師も出家し、佛教信託者になるための修行のなかで当時の人達にどれだけ変人、親不孝者、くそまじめ人間とさげすまされてきたことか知れないでしょう。お酒の席になると酔った人がいばりだして酔わない人をちゅう嘲笑(ちゅうしょう)する例は少なくありません。それと同じように正しい信仰の道を行んでいる人達をなにも知らない人達が自分のことを考えずに、嘲笑している場合が少なくありません。

このようなことでは人間の社会はよくなるない、改善していかねばならないと弘法大師はかたりかけていると考えられる。

真実と正義に生きている人達が支持されていくよつにいかねばならない。佛教の教えにめだめていくためには、このよつな現実について強く反省すべきことであると教えていると考えます。

弘法大師はこの言葉の後に次のように「名醫を訪れて薬を手に入れなければ(病氣を治すことが出来ないよつに)、いつまでも迷いの世界に酔い眠りかけていては(大日如来のさとりと光明をいつたい何時の日に見ることができよう)。」

これに加えて、真実を見る眼をおおいかくす眼病は、人によつて重かったり軽かったり、いろいろであり、また、さとりを得るにいつても、速い遅いのちがいがあ。能力は、すべての人と同じといつたわけではなく、性格も欲望も異なっている。……

その毒の解毒剤としてこの薬が良い、といふに「この迷いにはこの教えが良い」といふ色々な教えがあるであろう。仏がわれら生きとし生けるものを導く方法の大意は、やさしい父親が子供を導くよつなものではなからうか。……

(現象は、生ずるものでもなく滅するものでもなく連続も断絶もなく、一でもなく多でもなく、去来するものでもないという見地から)「仏が不生、不滅、不垢、不浄、など」と談じられると、文殊菩薩は無益な論をゆめて、空が通常認識では把握しえないことを観し、よつこび笑つ。(また、万物は純粹に主観によつて構成され、対象的に存在するもののようにあらわれ、という唯識の見地から)「仏が、是故空中無色無受想行識、など」と説法なると、弥勒菩薩は喜んで拍手し、仏が、対象と認識主観の不二なる事を、「無智亦無得、以無所得故」などとお説きになると、觀世音菩薩が満足され

ると述べられています。 終わり

# 幸せライフのお手伝い!

総合建設業

## 酒井技建

株式会社

代表取締役 酒井 武義

〒640-0416

和歌山県那賀郡貴志川町長山 277-68

TEL(0736)64-6776 FAX(0736)64-8908



## 皆さんのスーパー 株式会社 みち屋

代表取締役 道畑 勇

本 部 和歌山市岩橋 7 2 9 番地の 6

TEL (073) 473-4197

松 島 店 和歌山市加納 2 4 6 番地の 1

TEL (0734) 74-3500

貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山 5 1 7 番地

TEL (0736) 64-7020

# 縁起 (二)

(高野山真言宗 岩屋山 福勝寺)

重要文化財(本堂・求聞持堂・他)

## 浄土真宗紀伊半島発祥の寺

蓮如上人と福勝寺



福勝寺境内に建つ「名号堂」

何と言っても福勝寺には蓮如上人に縁のお堂が境内に建立されている事です。お堂正面の土手の上に、蓮如上人御旧跡碑が建立され、当寺所蔵の蓮如上人直筆の

「南無阿弥陀仏」の六号が御軸として保管されています。古文書として今回ご紹介する浄土真宗、本願寺第八世 蓮如上人縁起」がございます。



蓮如上人御旧跡碑

### その縁起

浄土真宗 本願寺第八世 蓮如上人、熊野へ御参詣され、冷水浦の飯盛喜六太夫という方が晩年子供のないことに悲しみ、福勝寺のご本尊千手観世音菩薩に三十七日間毎日、冷水浦から塔下王子跡の地藏峰寺に登って参り、坂を下って福勝寺に足を運びました。すると、即救世観世音が枕元にあらわれ、一枝の柳を受け賜いました。その後、喜六太夫の妻が懐胎し、十月十日をへて女子を生ず、その形みやびかにしてたくいなく、その心さとして同稚にすぐれたり、幼より仏法を愛樂するならわせがあった。父母、喜び大きく、寵愛特に深くして掌中の珠を大切にし養育せり、ところが十一歳の春、はからずも病の床にふし、遂に二月十八日の朝の露とともにきえうせて空しくなつて、父母の悲しみ限りなく野辺の送りを営み(甲い)十七日の速夜に当たり娘が召していた振り袖に黒髪を当寺、福勝寺に納め、その夜、宝前にて夢中に誦念し、少し眠気がさし、夢の中に娘の姿がありありと現れ、喜六

夫がわが娘の愛念の可愛さに、よく恋しく尋ねて来てくれたと取りすがろうとすると観世音の姿となつて消えてしまった。

喜六太夫は奇異な夢から覚め十一年の親子の絆は救世観世音菩薩の方便にて可愛い娘が生きていると感涙にむせび、悪路を越えて百ヶ日福勝寺の千手観世音菩薩参りをやり遂げ、法要を祈ること百夜満たす暁、救世観世音菩薩は喜六太夫に貴方は未来に向け解脱される、他力念仏(仏他)を説く抄門。蓮如上人が明朝、藤白峠を越える故、貴方は抄門を迎えるべしと、聞き喜六太夫は歡喜に涙し、峠に迎え、救世観世音のお告げを説明、蓮如上人熊野へ参拝の途中、隨喜の感深く、他力念仏の法要を詳しく説き、喜六太夫、たちどころに受得し、冷水浦のもの誰も聞いたことなく、喜六太夫は上人に熊野参拝の帰路是非小さな小屋のような家ですがお泊まり下さいと申し上げる



鼓ヶ畑から望む黒江

上人快く受託され二十日後に藤白峠に迎え、ここより冷水浦への山の半腹に平地(鼓ヶ畑・つづみがはた)あり、暫く、ここで四方を眺望すること、南海渺々として天を兼ね、この遠近光景は極楽浄土、絵に写すことは難しい程の素晴らしさで、詩にものべがたい、蓮如上人ご機嫌麗しく少謡を作り詠われました。

**称えれば声のうちなる極楽を**

遠しと人は思わん

念々相続する人は、

念々ことに往生す

三心のしなとても

称名のうちを離れず

唯よしあしをはからわす

行住座臥なれや

南無阿弥陀仏 阿弥陀如来

【蓮如上人の詩】



蓮如上人ご休憩場所旧跡碑

上人が手鼓を打って謡われました。今、この地を「鼓畑」と言つて宝塔に御謡を刻んで後世にのこしている。

帰路立ち寄り、村の者多く集まつて蓮如上人自ら御教化を施し、村の諸人浄土真宗に帰依し村の者南紀の真宗ここにありと開き、この時、蓮如上人より救世音菩薩の功德を賜り、同行四五人を選び福勝寺に参詣する。今日でもこの山道を御僧か谷と言ひ伝えられています。

福勝寺の地形は土質の無い岩盤の上に建築されていますが、境内には福勝寺創建以前から山岳密教修験者の行場であった「裏見の滝」、樹齢一千年と思われる楠の木・杉の木・榎の木と生き延びている荘厳さは創建者の想いが理解できる。自然界の生きとし生けるもの荘厳さ、永遠に生き続ける素晴らしい智慧が現代人の私達に投げかけてくれています。

**喜六大夫のその後と功績**

「そのご妻にも先立たれ蓮如上人に帰依し、了賢という法名を下附され、自宅の一室に上人直筆の六字名号を安置寺とした。これが、了賢寺の草創で、紀州真宗の起源と称せられる」といわれる。

六字名号とは、南無阿弥陀仏のこと。南無とはサンクリット語のナームの音訳、つまり、身も心も帰依しますの意で、阿は否定語、弥陀は、ミタで量の意、つまり、はかりしれない宇宙にすべてお任せします、という意味であります。

了賢という法名がそのまま寺の名になつているのは非常に珍しいそうです。喜六大夫が海の魚を捕る漁師であり。山で獣を捕る獵師でもあつた彼が、親鸞上人の教えに救われたとも言えます。

仏教は固く殺生を戒めています、人間が生きとし生けるものの恵みなく生かされません。その生きとし生けるものへの感謝なしに命がありません。親鸞は生きとし生けるものを食べない苦行をしても煩惱を消し去ることは出来ないと言つた。ただナムアマダブツと唱え、弥陀にすべてお任せしようとする他力本願を教える。「善人なおもて往生す、いわんや悪人をや」と、悪人も弥陀の前には皆平等であり、救われる、と説く。

この冷水浦の地形からは、田畑は想像できない。目の前の海で、魚を捕り、山に入つて鳥獣を捕らえる。当然の生きる道である。「殺生して、救われる道はあるだろうか」、そう思つていたのは、喜六大夫ひとりではなかつたろう。

ここに、親鸞の説く、悪人正機、煩惱菩提、そのまま往生、称名を唱えるだけの実践といった誰でも分かる宗教に出会つたのであります。

その後多くの浄土真宗に帰依する信者によつて福勝寺境内に「名号堂」のお堂が建立され、今日も多くの浄土真宗の檀家さんの参詣が絶えない。終わり



有限会社 ミヤタケ

代表取締役 宮下隆博

〒640-8329  
和歌山市田中町4-119  
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス

代表取締役 山口昭昌

〒641-0054  
和歌山市塩屋5丁目5番43号  
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

# 仏教小話

## 入獄志願の春朝上人

日本仏教は、奈良時代には貴族向きの学問仏教で、一般庶民の生活とは全く関係がなかったが、平安時代に入ると次第に一般性を帯びて、国民生活の中に溶けこんできた。やがて鎌倉の、平民的新仏教の栄える土台をなしたのであります。

そのころ（平安中期）京都の街に春朝と名乗る僧侶が住んでいて、哀婉（あいえん）優雅な音声で読経し、聞くものをして自ずから合掌礼拝せしめずにはいないと知らされていた。しかも彼は一方、非常に慈悲心に富んでいたが、たまたま都の獄所で多くの囚人の苦しむのを見るに及んで、いかにして彼等からこの獄苦を抜き、佛種を植えんものと思いついた。

そこで或日、春朝は或る富豪の家を訪れ、この家の銀器をわざと盗んで、捕らえられて獄に投ぜられた。かくて入獄した春朝は、日夜をわかつたず得意の音声で、法華経を誦し、かたわら囚人相手に法を説いて、その化導にこれ努めた。そのため獄中一様に歡喜せぬものとしてなかつたが、或日、白象に乗った普賢菩薩が手に飯鉢ささげて春朝に供養する奇異な夢を、獄吏一同がそろって見たので、不思議に思つて相談の末、彼を獄より釈放することにした。

ところが獄から出た春朝は、再び悪事をはたらいて獄につなわれ、またもや哀婉優雅な音声で法華経を誦しつつ、懸命に法を説いて囚人の教化につとめた。かくすること数回、釈放すればすぐ悪事をはたらいて入獄し、繰り返して囚人に法を説いて倦まない不思議な春朝の取り扱いに迷った獄吏たちはついに協議の末彼の両脚を切断し、再び悪事を犯さぬようにすることにした。しかし刑場に春朝をひきつれていざ処刑せんとしたところ、彼はまたまた高い声を張り上げて法華経を誦し、その音声

が哀婉婉々として胸にせまつたため、さすがの獄吏も感泣して刑を行うに堪えず、ついに春朝を刑場におき去りにした。しかもその夜、その獄吏の夢枕に一人の天童が立って、『春朝は囚徒の魂を救つべく七回も入獄したが、彼がそうしたのは菩薩の大悲方便である』と告げた。

その後、春朝は北野の辺りに死んだが、その霊が毎夜いつものように哀婉たる音声で法華経を誦し、そこを通る人の心をうつたと伝えられている。

刑務教誨（きょうかい）の濫腸（らんちよう）とも言われるべき物語である。大法輪昭和三十年五月号より



## 法務教官の寺田征弘君に

### 贈ることば

私（叔父）の会社が倒産、お父さんの再就職で君は大学の夜間部を自ら選んで卒業、人並みに民間企業に就職、結婚、国家公務員、君には強い信念と新妻の愛があった。

ハンディキャップの弟を持ち、時には厳しい表情の中に弟への優しい思いやり、その行為が最大の両親への親孝行、そんな処に君の真意があるように思う。

ところで今日の青少年の犯罪は巨悪化の上、今までの考えでは想像できない犯罪が多発している。

戦後の青少年犯罪の裏には両親がいない（戦争浮浪者）とか、食べ物欲しさに罪を犯す。

昭和二十五年頃になって太陽族犯罪という性遊戯・売春、ヒロポン等、罪を犯した彼らには、立派に自分で稼ぎ、他人にお世話にならず生活をしている、むしろ世の中の立派といわれる上流社会人こそ悪い事をしていっているという可笑しい自負があったそうです。

今日はどうでしょう。立派な家に住み、立派な両親のもとで育み、本人は立派な学校に進学しているという一見、何一つ不足のない環境で育っているという。

何故なのだろうか、その原因は家庭が貧困だからでない。

その犯罪を生む原因は家庭に、学校に社会にあると言われています。

戦後の民主主義は、その本来的意味における自由・平等・博愛の真意よりも、人間中心のヒューマニズムを浅く解して、結局は自分心しか頼るものはないという考え方に突き詰められ、欲望する自己、これ

こそ赤裸々な人間の姿だと追い詰められたのが今日の日本人社会の現状ではないかと考えるのです。

経済至上主義の利己的な個人主義を打破しなければならぬと考える。

征弘君、叔父さんたちが戦後の食糧難でやつと戴いたサツマイモの美味しさは、現在の食味の美味しさとは全く異なります。

それに、誰よりも優れたものを如何に創造するかが利己的で功利心から自分を満足させる唯一の手段、どうすれば最も早く他人より得をして暮らす事ができるかという効果を狙うようなドライな考え、その結果の敗北心が青少年の巨悪事犯を起こしている。このような浅薄な自己中心の考え方を打破する為には日本伝統の茶道・花道・伝統民衆芸術・武道のアナログ的思考、仏教的思考の日本人が先祖より積み重ねられた潜在意識の上に各個人の個性的能力が潜在意識としてメモリーされる宗教心を育てる事が今の日本の社会人の役目でないかと思つております。

征弘君は巨悪人・悪人といわれる現象の心の奥の心、即ち仏の心を持った青少年に差別なき父親のような心で接し、急ぐことなく、『自分が悪人であった。申し訳ない』と懺悔する青少年の目覚める教育に君の人生をささげて頂くことを念願致します。

弘法大師は「即身成仏」と親鸞上人は「悪人正機」という言葉を残されています。いずれも、誰でも自分が行った行為に気付いた時に仏になるということです。

目覚めたからとて被害者は救われません。気長に法務教官として取組んで頂きたい。

空海は「聖なるものを見つげ出すために理性は役に立たない。いくら経典や論書を読むより、素晴らしい先輩や恩師をもつことだ」と述べています。

弥栄

# 仏教用語

諦念(ていねん)：道理をわき

まえてさとする心

潜在能力：自覚することなく表

れる力。

潜在意識：自覚することなく活

動する意識。

唯 識：一切の諸法は識とし

ての心が現じたもの

に過ぎず、識以外

に存在するものはな

いということ。

煩 悩：心を煩わし、身を悩

ます心の働き。

煩悩即菩提：煩悩は

そのまま悟りの縁で

あること。煩悩の本

体は真実真如にほか

ならないから、煩悩

と菩提は一体である

ということ。

哀 宛：この世にないような

美しくきれいな。

教 誨：世の定めを教える。

(現・法務教官)

濫 腸：水が溢れ流れる如く。

供 養：三宝(仏・法・僧)ま

たは死人の霊に供え

物をして善念を送る、

感謝。

## 明けの明星

(夜明けに東の空に見える金星)

釈迦が「生老病死」の自分の力でどうしよう

もない苦しい悩みから開放される智慧を授

かった時に十二月八日明けの明星を見な

から「有情非情同時成道、山川草木

国土悉皆成仏」と悟られたのでありま

す。すなわち「有情」生きとし生ける

もの、「非情」ありとしあらゆるもの、

悉く今仏になっている。山も川も草も木も

悉く仏の相(すがた)である。

みんな生かし合い、拝み合いの相である、

今まで地獄の相だと思っておったのはまち

が良かったとお悟りになったのであります。

これが釈迦のお悟りになった縦の真理であ

ります。

釈迦は六年間苦行されあげくの果てに、

とうとう悟りの道を発見しえず、苦行も悟

りの因にあらざ」と気がお着きになって苦

行林を出て麓まで下りて来ると、そこに小

さな尼漣禅河(にれんぜんが)という河が

ある。その河の中へお降りになって、今ま

で六年間身体を洗ったことがない、その身

体の垢をすっかり洗い落しになったので

あります。この日が十二月八日の明

け方であったのであります。そこへ一人の

バラモンの娘が牛乳で煮たお粥を一杯供養

してくださったのであります。釈迦は今ま

ではそういうものをたべるのは罪悪である

ような気がしていた。やはり穀物も生きて

いるのだ、それを食べる事は穀物の生命を

奪うことである、牛乳はうしの赤ん坊の飲

むものである、それを飲むことは牛から人

間が奪う略奪である。人間が生きている生

活は殺生と掠奪との上に成り立っていると思

って悲惨な気持ちで悩んでおられました。

ところがその時どついつつものが釈迦はその

捧げられた牛乳の粥を心の苦しみに

に、悲惨な感じなしに

「ああありがたい!」とおおがりになら

れたのです。(ここで釈迦は生まれ変わ

り・有餘涅槃)「生命の実相・第九巻

谷口雅春著より」

## 岩屋山 福勝寺、所蔵品

### が公開展示される

### 「加茂谷の歴史と文化と生活」を探る

一、加茂谷のはじまり

二、加茂谷と加茂氏

三、福勝寺と蓮如

四、加茂谷とみかん

場所：下津町

### 歴史民族資料館

下津町上六八六

長保寺境内

電話四九二一四八二六

期間：平成十二年九月末日迄



歴史民族館

## 碩峯の写経・法話

十一月度

写経会

十一月十四日

午前十時～十二時

(会費・千円)

法話会

十一月十四日

午後二時～午後四時

十二月度

写経会

十一月五日

午前十時～十二時

(会費・千円)

法話会

十一月五日

午後二時～午後四時

### 福勝寺行事案内

平成十二年元旦

一、除夜の鐘

午前零時

### 編集後記

あれだけ飲んでた酒とタバコを止めた私、お酒が大好きであつた亡き父の蔵書を読んでいると、赤ペンでラインを引いている個所に目を向けた。

「大酒のみの父親の子供が夕食事に英語の優れた辞書を買って欲しいと申し出ると、父親は値段を聞いて言下に「バカ そんな高いもの買えるか」とこたえたと、子供は即座に「しかしお父さんが酒を飲む事から考えれば安いものだ」と答えたという。これには父親もすっかり返答が出来ず、以来酒を止めてしまった。そして先生のところへゆき以上のおいきさつを告げ、「私は今日まで一ヶ月間断酒をやりました。でも今後大丈夫だと思いますので報告に来ました」とのこと、勿論辞書は買ひ与えたそうです。先生は「そのような教育はしてありませんが、二宮尊徳が自分の得たお金で小田原の町に出て醤油、油、などの日常品買いととのえ、父上の好きな酒をもとめて帰った」という話を引例する事にしてあります。先生は自分の事で恐縮ですが、教壇にたつて立つて三十年間、酒もタバコもやめております。けれども来客のあつたときには気持よく酒を出し、相手が気兼ねしないような雰囲気をつくることを忘れません。」と書かれていた。亡き父を思い出し、充分な親孝行も出来ずに他界した父、ありがとうございました。 倉筆